

# 大切な作物を守る

## イノシシ対策

日光市内ではイノシシによる農作物被害が増加傾向にあります。

手塩にかけて育てた農作物が被害にあわないように下記のことにつけて対策を練ってみましょう。

### イノシシはこんな動物です

【住みか】通常は平らな林や山に住んでいます。また、警戒心が強く人里に近い林に住むものは昼間は茂みに身を潜め、夜間に活動することが多いようです。

【食べ物】雑食性で何でも食べます。

【性格】『猪突猛進』のイメージとは違い非常に臆病で注意深い動物で、なかなか人前には現れません。しかし、非常に賢く一度安全だとわかると続けて出沒します。

～どんなことをすればいいんだ？～

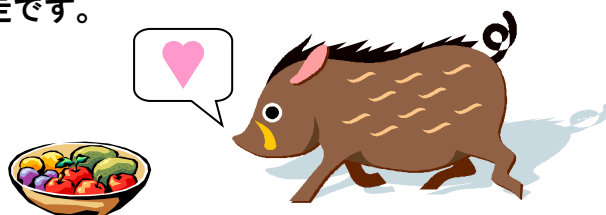
～具体的対策～

### えさを与えない！！

販売や、自家消費に適さない果物や野菜の『クズ』も、イノシシにとっては魅力的な『ご馳走』です。放置したり、まとめて捨てておくことは、イノシシに『餌付けしているのと同じ』だと思ってください。面倒でも埋めたり、自宅に持ち帰る等『魅力的な餌場』にならない地域づくりが必要です。



低い果樹に実った果実や、熟して落下した果実は絶好のご馳走です。



### 隠れ家をなくす・つくらない！！

耕作放棄地や田畑の近くの林のヤブの刈り払いを実施して、見通しを良くし、隠れ家をなくすと、警戒心が強いイノシシは隠れることができなくなり、近寄れなくなります。



荒地のヤブは絶好の隠れ家です！



刈り払いで隠れ家撲滅！！

## 農地に入れさせない！！

田畑を囲い侵入を防ぎます。

ワイヤーメッシュ、トタンなどで囲み物理的に遮断する方法があります。その場合は、飛び越えてしまうのを防ぐために、おおむね80cm以上の高さになるようにしましょう。

また、資材のつなぎ目や、地面に凹凸があると隙間があると、進入される原因になるのでしっかり囲みましょう。また、押し倒されないよう狭い間隔で杭を打つなどの対策を行い、強度を持たせましょう。

通電させた電線で田畑を囲む『電気柵』も有効です。イノシシは鼻でにおいをかぎながら移動するため、電線が鼻にあたるように（地面から20～40cm）に張ることが大切です。鼻以外にふれても毛で覆われているため電気ショックの効果がありません。

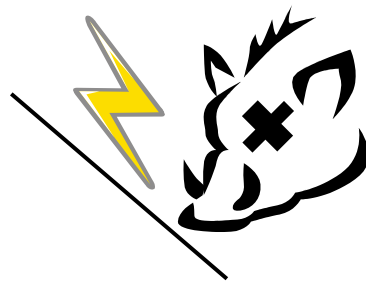
また、電気柵は雑草等が触れてしまうと漏電して威力が発揮できないので、こまめに見回り、点検をして草刈を行うなど管理をすることが大切です。

※電気柵を設置したときは、注意看板を設置するなどして危険な旨を周知してください。

これらを複合させて、トタンで囲ったあと、その20～30cm離れた外周に電気柵を張るとトタンに直接触れることができなくなり、飛び越えることも難しくなるので非常に効果的です。



田畑に出てこないように設置された電気柵



## イノシシの天敵は人間！！

イノシシにとって人間は『恐ろしいもの』であり、いちばん恐れるのは人間の活発な活動です。設置器具の点検や草刈、刈り払い等を含め人が頻繁に出入りしていることを認識すると、怖がって近寄らなくなります。犬がいる痕跡（におい等）も嫌がるので農地の周辺を愛犬との散歩コースに設定してみるのもいいかもしれません。

また、個人で活動するのではなく、地域ぐるみで協力して活動しましょう。個人の負担が軽減するだけでなく、広範囲に活動することにより、地域からイノシシを追い出すことができます。

## 日光市では獣害対策を支援しています！！

・ 農業者の方、その団体の方が獣害対策に用いる資材費に対し補助金を交付します。

くわしくは 環境森林課 自然環境係 電話：0288-21-5152

・ 『とちぎの元気な森づくり』の事業として、野生獣被害が発生する恐れがある農地に近い里山林を整備し、野生獣が近寄らない地域づくりをします。

くわしくは 環境森林課 森林政策係 電話：0288-21-5104

～イノシシにとって

『来る魅力がない』『怖いところ』

と思わせることが大切です～